



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2018年9月 NO.38



<保全配慮地区の“斜面”を台峯の尾根(老人の畑)から臨む>

保全配慮地区は市が買収へ

目次

■ “保全配慮地区”の保全の進展について	2	■ 鳥の名前よもやま噺 ③ セグロセキレイ	8
■ 工事の遅延と今後の整備について	4	■ 台峯の周辺 ⑩ 『サンドイッチ』	10
■ 緑の洞門	6	■ 活動記録・会計報告	11
■ 北鎌倉女子学園中学		■ カレンダー・集いご案内など	12
生徒さんの感想文	7		

.....
“保全配慮地区”（北鎌倉側斜面）の
保全の進展について 公園課より報告①
.....

8月1日、鎌倉市公園課より、台峯 保全配慮地区の保全の見通しが立ったので、説明をしたいとの申し入れがあり、当基金より3名の理事が、鎌倉市公園課で話を伺いました。以下はその報告です。

●台峯 保全配慮地区とは？

台峯緑地の北鎌倉側（東～北）斜面は、住宅地に隣接し、多くの地主がいたために、基本計画では、台峯緑地の中心部とは異なる「保全配慮地区」という名称で保全が見込まれていました。しかし、法的な裏づけのない紳士協定に頼っていたために、一部（“藤源治”といわれる、“老人の畑”から見える斜面）が開発されてしまいました。

●都市計画決定により、鎌倉市が買収し、台峯緑地の一部となります。

このまま、法的裏づけの無いままに放任されるのではないかと心配していましたが、このたび、都市計画決定の位置づけがなされる見通しが立ちました。すでに測量と地権者への話し合いが終わっており、議会の承認を経て、平成36年にかけて、鎌倉市が買収していく見込みです。

まだ買収されていない以上、開発の心配がなくなったとは言えませんが、台峯緑地の完全な保全に向けて、明確な見通しが保障されたということです。

1. 台峯緑地の開園（供用開始）時期に変更はありません（平成33年春）。ただし買収は平成35年まで続く見込みです。

2. 都市計画道路（関谷・由比ガ浜線）の予定地は図面上には残りますが、公園課としては、現状では実現の可能性は低いと考えているそうです。

3. 都市計画道路予定地は野村不動産の所有ですが、今回の決定で、鎌倉市が野村不動産から取得することになりました。

4. 基本計画で図示されていた「保全配慮地区」と変更になった部分はほとんどありませんが、以下4箇所が変更（縮小）されています。

1) 山ノ内配水池の入り口付近→西瓜ヶ谷緑地に編入されたため。（地図上 A）

2) 北鎌倉女子学園グラウンド→学校所有地のため。（地図上 B）

3) 台稲荷周辺→神社境内のため。一部は台峯緑地に編入されます。（地図上 C）

4) 山崎小学校へ下る坂道の道端→地主の要望。（地図上 D より西の一部分）

旧「保全配慮地区」全体の面積は8ヘクタールですが、すでに野村不動産の所有地6ヘクタール分を取得しているので、今回は、個人地主約28名が所有する残り2ヘクタール分を取得することになります。公園課の話では、現時点で開発を考えている個人地主はいないようだとのことでした。道路が狭いこと、急斜面であることから、ミニ開発が難しい場所でもあります。また、市が買収する際は、個人地主への税制優遇措置がはかられます。

●今後の問題

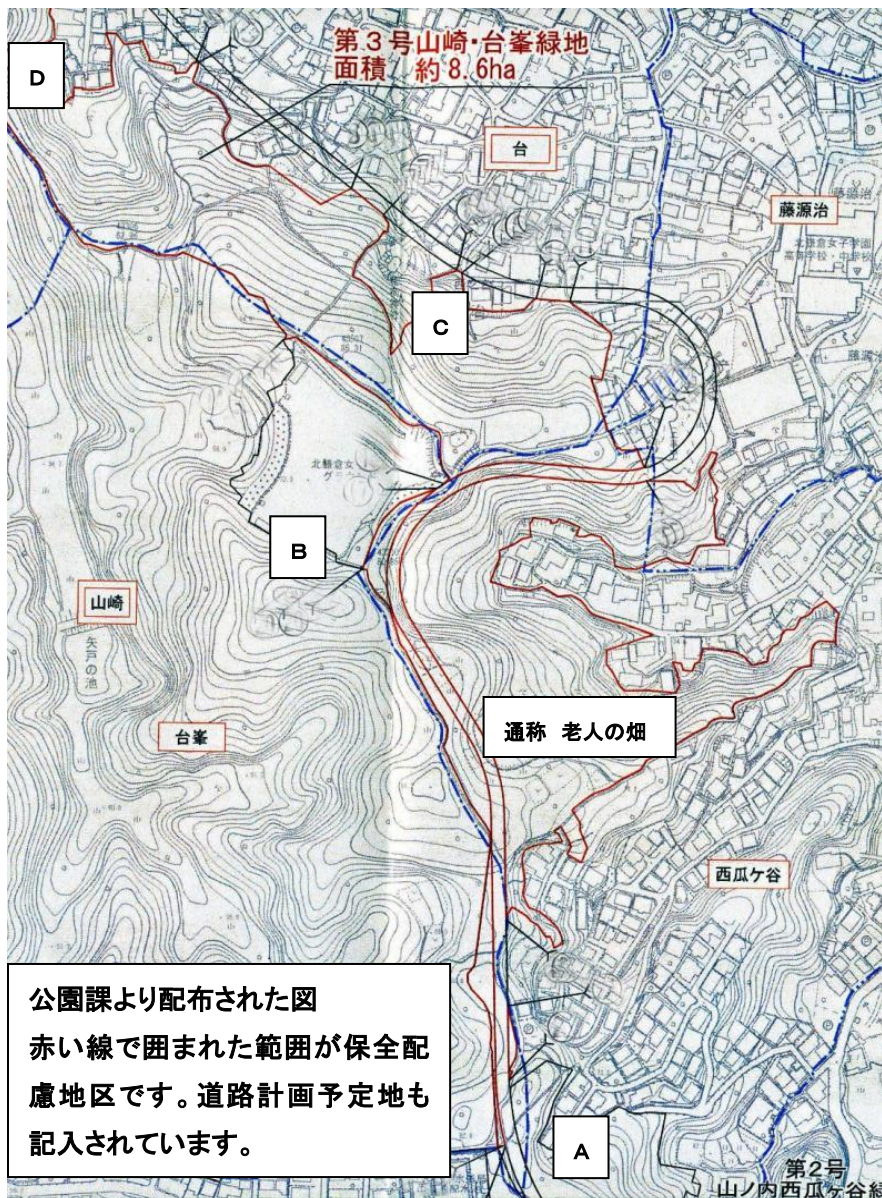
1. 鎌倉市の財政が逼迫している昨今、一部議員の反対もあるかもしれません。

2. 斜面緑地が台峯に編入されると、住宅

隣接地が増えることから、開園後の対応が難しくなります。指定管理業者は、住宅辺縁部の樹木の管理に追われるからです。緑地内の保全管理には、手が回らなくなるでしょう。

3.「保全配慮地区」の周辺には、田んぼや史跡を含む緑地が残されており、これらの保全をどうするか、課題が残されています。理事長を長く務められた、故“なだいなだ”氏も、台峯緑地周辺の中小緑地の保全も忘れてはならないと言いつ残されています。

台峯「保全配慮地区」の今後の予定	
平成30年	
12月頃	法に基づく案の縦覧
平成31年	
1月頃	都市計画審議会へ付議
2月頃	決定の告示
6月頃	事業認可の取得
平成31～35年度	用地取得および施設整備



.....
工事の遅延と今後の整備について
公園課より報告②
.....

台峯の“谷戸の池”周辺は堤防の工事や散策路整備のため、立ち入り禁止が続いています。8月下旬に終わるはずの工事が、10月末まで延期されることになり、9月6日に公園課の説明を受けることになりました。基金からは2名の理事が出席しました。以下はその報告です。

●工事の遅延について

「谷戸の池」と谷戸内部の工事は、8月下旬に終わる予定でしたが、10月末までかかることになり、業者と契約を更改したとのことです。

池から除去したヘドロを固めるために土壌改良剤を混入する作業が難航し(予想以上にヘドロの水分量が多く、改良剤を大量に注入したため)、工程が遅れている。9月以降に堤防の工事に着手する。

●10月末までのその他の工事に関して

- 1.工事用仮設路(谷戸の池～グランド排水口まで)の撤去。
- 2.作業用道路(ヒューム管～山崎小入り口までの砂利道)への侵入防止柵設置。
- 3.水路沿いの散策路(ヒューム管～オギ原)の拡幅(斜面下に堆積した土砂の撤去にとどめる)と転落防止柵(ロープ柵)の設置。

●管理棟の工事について

すでに基盤整備が終わっている、山ノ内配水池側の管理棟の建設が、9月下旬～来年の2月に実施されます。山崎小学校裏

(魯山人の其中庵跡地裏)の管理棟の建設は来年度となります。

基本計画では4箇所に施設整備が予定されていましたが、最終的に上記の2箇所に削減される見込みです。

●谷戸の池付近の湧水(絞り水)と散策路の保護について

湧水(絞り水)のため、散策路が水びたしになっており、散策路に砂利を敷くなど、なんらかの対策が必要なようです。ただし、当初の基本計画では、保全ゾーンの区間であり、多くの人を歩かせることが目的の場所ではないため、当基金としては、整備の仕方については話し合いを重ねたいと考えています。

●現地視察について

市側の都合で、10月末以降になる見込みです。

●その他

1.老人の畑の下の竹林繁茂について

眺望を妨げるほどに繁茂してきたので公園課で一部伐採したが、竹林が密生しており急傾斜地のため、業者による作業を考えている、今後数年かけて伐採していくとのこと。

2.スズメバチの巣について、基金から報告。

3.オギ原のカナムグラの繁茂とオギ原の保全について、ボランティアによる作業の継続について基金から申し入れしました。

4.工事用仮設路の撤去で出た砂利は、当分、山崎小学校側の入り口付近に集積しておき、今後の工事で再利用できれば使用するそうです。

●今後の問題点

- 1.水路沿いの散策路の拡幅と転落防止柵（ロープ柵）の設置でかなり景観が変わると思われます。
- 2.上記の散策路の安全のためには、斜面の樹木（傾いて倒れそうな木が多い）を伐採しなければなりません、散策路の工事で伐採する予定は無いとのことでした。今後も対応について話し合いを続けることになりました。
- 3.前述しましたように、谷戸の池付近の湧水（絞り水）と散策路の保護については、環境保護と景観の観点から、整備の仕方について、話し合いをすることになりました。
- 4.今まで、基金で歩いていた散策路の一部（ヒューム管～グランド排水口まで）は、環

- 境保全の意味もあり閉鎖となります。しかし生態系保全のためには、水路にかぶさった枝を払うなどの保全作業やモニタリング調査が必要になります。今後については、管理体制に関する話し合いの中で検討することになりました。
- 5.管理棟の数が4つから2つに削減されたため、作業に必要な道具置き場が無くなってしまいました。開園後は、管理棟の内部に道具置き場を設けるなどが考えられます。今後、管理体制に関する話し合いの中で検討することになりました。

以上、積み残しの課題を多く抱えながら、来年度以降、管理運営方針を考慮する過程で話し合うことになりました。



倒れる危険！傾いた樹木がたくさんある



拡幅（堆積した土砂の撤去にとどめる）が必要な散策路（山崎小学校裏～ヒューム管の間）



保全作業には今も多くの人に参加する。道具の置き場所が必要。



左と同じ地点。散策路の片側（水路になっている）が急斜面のため、ロープ柵が必要

.....

緑の洞門

.....

北鎌倉駅の下りホームに沿う素掘りのトンネルは鎌倉らしい風情を残し、小津安二郎の名画の舞台ともなったことでも知られています。愛着をもって「緑の洞門」と呼ばれており、洞門の上の尾根筋は円覚寺の北の結界として14世紀に作成された同寺境内絵図に記され、現在国指定史跡への追加指定が検討されています。

ご承知のように、安全性を理由に洞門が封鎖され、3年4か月経過した現況にあります。当初の開削計画から尾根を残す方針への転換を、2016年7月市議会を通じ市長は表明しました。併せて仮設工事の実施を公表、具体的には2016年7月時点で

は翌'17年1月に、'16年11月時点では'17年夏には仮設工事を行うと再公約しています。'17年より松尾市政は3期目に入りましたが、この公約はいまだ果たされていません。

当基金も「北鎌倉の洞門を守る会」と、保全と安全性を基とした運動に賛同してまいりました。今年6月の市議会への誓願も連名で行った次第です(当基金のホームページをご参照ください)。一日も早く先ずは仮設工事に踏み切り、安全に通行ができることを強く求めます。

当事案については、別の機会があれば、保全をめぐる行政の対応を含め問題点を考えてみたいと思います。

平成30年9月

理事長 出口 克浩

○ 秋の台峯を飾る花



<ツリフネソウ>



<ヨメナ>

.....
北鎌女子学園中学 生徒さんの感想文
.....

当基金は、北鎌倉女子学園中学 1 年生徒の皆さんを毎年台峯にご案内しています。

若い感性に自然を見て貰うことは、却って私達が教わることが多いので、大いなる喜びです。

一昨年 3 月ご案内時の感想文を、学校およびご本人のご了解を得て同校学園誌より転載します。



『外来種から学んだこと』

私は、今回の山歩きで鎌倉の自然にふれました。横浜では見ることのできない植物を見たり、鳥の鳴く声を聞くことができ素晴らしい体験をしました。

ガイドの方のお話で一番心に残ったものがあります。それは、ヒメオドリコソウのことです。私はこの植物が外来種であることしか知りませんでした。外来種だけであり、ただ生えているだけだと思っていました。でも、ガイドさんが初めに言ったことは、「これでも減った方だ。」ということでした。このままヒメオドリコソウを抜かないでくと元々日本にいた植物が、なくなってしまうそうです。でもその後、「ヒメオドリコソウに罪はない。」

ということを言っていました。私はそうだなと思いました。なぜなら、日本に種を持って来たのは人間であるからです。

私は、この山歩きを通して自然というものに対する考えが変わりました。外来種は植物以外にも野鳥などがいます。でも日本に来たのは人間のせいであり、そのものに罪はないという考えになりました。

飼えなくなったペットや育てられなくなった

植物を、簡単に自然の中にはなしたりするのではなく責任を持って育てたいです。そして、今後も自然が残ってほしいです。(Y. S)



『鎌倉での山歩き』

今回の山歩きは、北鎌倉の周辺を三班に分かれて散策しました。山歩きは久しぶりで、春を感じられる花が沢山咲いていて、とても良い山歩きになりました。

一つひとつの班に講師の先生方がついて下さって木の名前や、言い伝えなど、たくさんのお話をして下さいました。普段、何げなくグラウンドに行く道にも、上を見上げてみるととても高い木がおおいかぶさっていたり、沢山の種類の草花が咲いていてとても驚きました。北鎌のグラウンドを過ぎて、少し広い広場に出た時の上からの景色はとても綺麗でした。講師の先生が「あの木の中は白くて穴が空いていますよ」とおっしゃって、私たちに見せて下さいました。おっしゃっていた様に中はすきすきで、白かったので驚きました。私達が不思議に思った事をこれはこうなんだよ、と全部答えて下さって、とても有り難い気持ちでいっぱいです。

山歩きの時の、お話の中に、「前に一回、この辺りの森が全部無くなりそうになってしまったけれども、私達が森を守って無くなってしまふことを止めたんだよ。」とおっしゃっていました。この森や自然は、沢山の方々のおかげで、守られているのだな、と改めて感じました。私は鎌倉に住んでいますが、山歩きというのはあまりしたことがありませんでした。今回は自然を改めて感じられるいい機会となりました。(M. I)

鳥の名前よもやま噺

第三話 セグロセキレイ

前回、鎌倉の市街を取囲む低い山々が、里山から森林へと変化してきたので、コゲラという日本特産、世界で最も小さい啄木鳥がごく普通に見られるようになった話をしました。今回はその反対、つい最近まで鎌倉の身近で見られていた鳥が、今では、滅多に見られない鳥になったセグロセキレイの話の話をします。



<セグロセキレイ> *Motacilla grandis*

by Laitche is licensed under C.C.A-S.A 4.0

この鳥が鎌倉で見られなくなった原因は、コゲラのように里山の森林化とは違う原因があります。かなり以前、私が鳥を見るようになった当時の事です。日本を代表する鳥類学者の樋口先生が、日本野鳥の会神奈川支部で講演され、「日本列島に西から侵入してきたハクセキレイと、北から侵入してきたハクセキレイとが、この辺(多摩川)でぶつかり合い、同じハクセキレイでも、色々な亜種がいる、ハクセキレイをしっかりと観察すると面白い。またハクはセグロより環境適応力が強いので、セグロの生活圏が奪われている現状を指摘され、この辺のセグロはかなり減ってくるのではないかとのお話を伺いました。三十数年後の鎌倉ではその通りなっています。専門の学者とはすごいと思います。

それにしても今の鎌倉でのハクセキレイの増えかたは尋常ではありません。私の時代、ハクの成鳥とセグロの幼鳥の見分け方は、識別を稽古する良い練習対象になったのですが、今はハクセキレイばかりになってしまいました。

いま鎌倉では外来種のカビチョウが増え、ウグイスが減ってくるのではないかと、話題になっていますが、ウグイスがセグロセキレイと同じ様にならないかと心配されています。



<ハクセキレイ> *Motacilla alba lugens* by Alpsdake is licensed under C.C.A-S.A3.0, Wikipedia

セグロセキレイの学名は **Motacilla grandis Sharpe, 1885** とされています。最初の **Motacilla** はセキレイ属 **grandis** は種名、次の **Sharp** は種名の命名者名で、末尾の **1885** は命名した年を表しています。通常は命名者名と命名年は省略されて、**Motacilla grandis** と表記されます。前回、説明したとおり私はローマ字の読み方で、モタキーラ グランデイスと読んでいます。セキレイ属 **Motacilla** はリンネが **1758** 年に属名を命名しています。これでセキレイの仲間は、最初に学名を付けた時からの、いわば学名のチャーターメンバーであることがわかります。それに比べて、セグロセキレイは、はるか後年の **1885** 年になっての命名です。**1885** 年とは明治 18年です。日本はヨーロッパと同じ旧北区に属し、共通する鳥が多いのですが、ヨーロッパの学者から見ると、日本列島は地勢的に見て、ユーラシア大陸

から隔離分布した種が多いはずであると、大変な興味を持たれていました。鎖国中の日本から、なんとか動植物の詳細を知りたいと、懸命に情報を求めてきた時代が長く続いていました。それまではケンペル、ツンベルグ、シーボルトなどの報告で、断片的な情報があったに過ぎません。それが明治維新開国となり 1885 年ともなると、学者ばかりでなく、博物に興味のある来日した多くの人々が沢山の博物の情報をヨーロッパにもたらしていた時期です。鳥類の世界でも、日本特産の新種、亜種がヨーロッパに沢山報告されています。セグロセキレイもその中の一つであることが、この学名の命名年から判ります。

属名の **Motacilla** の命名者リンネは、セキレイ属の学名をローマ時代の大学者プリニウスの博物誌37巻156節にある鳥名から引用してきました。**Mota+cilla** のなかの **Mota** は動かす **moveo** からきたラテン語です、**illa** はラテン語の縮小女性詞、**motacilla** で小さなものを動かすとの意だそうです。しかし **cilla** は学名で尾を意味するように使われています。この辺のところ、もっと詳しく書くと、あまりにもマニアックになりますので、興味のある方は御一緒に山野を歩くときでも質問して下さい。種名になっている **grandis** はラテン語で「大きい」と云う形容詞です。ラテン語の形容詞は形容する名詞の後ろにきます。(日本語や英語の形容詞は前についています)

ハクセキレイの学名は **Motacilla alba Linnaeus, 1758** です。この **Linnaeus** とはリンネの事です。**alba** は白の意味です。

セグロセキレイの英名は **Japanese Wagtail** とか **Japanese pied Wagtail** と云

います **wag** は振る、**tail** は尾 **pied** はまだらの意味です。前回話した通り英名で最初に **Japanese** のつく鳥は日本周辺の鳥です。ハクセキレイの英名は **White Wagtail** とか **Pied Wagtail** と云います。

今回は学名の話ばかりで、セキレイの尾を振る習性には面白い日本の話がありますが、これは何かの機会に譲ります。

久保 順三

セグロセキレイ -Wikipedia より、写真も

セグロセキレイ(背黒鶺鴒、学名: *Motacilla grandis*)は、[スズメ目セキレイ科](#)セキレイ属に分類される[鳥類](#)の一種である。主に水辺に棲む。

形態

体長 20-22cm、[翼開長](#)約 30cm^[2]、体重 26-35g。[ハクセキレイ](#)と同等。

頭から肩、背にかけてが濃い黒色で、腹部が白色で胸部は黒色。[ハクセキレイ](#)と見分けが付きにくい場合があるが、本種は眼から頬・肩・背にかけて黒い部分がつながるところで判別できる(右写真を参照)。またハクセキレイや[キセキレイ](#)と同様に尾羽を上下に振る姿が特徴的である。雌雄ほぼ同色だが、雌は背中が雄に比べると灰色みがかっている。幼鳥は頭から背中まで灰色である。ただし、ハクセキレイの様々な亜種に似ている部分白化個体の観察例もあるので¹、ハクセキレイとの識別には注意を要する。本種の[地鳴き](#)、「ジュジュツ、ジュジュツ」に対し、ハクセキレイでは、「チュチュツ、チュチュツ」と聞こえるので、声による識別は可能である。(以下略)

台峯「老人の畑」からは眼下に、横須賀線の電車が北へ大船方向に進むのが望める。

大正終りから昭和にかけて筆者の父は藤沢の旧制中学に通ったが、剣道部の練習を終えての帰りは腹が減り、乗換えの大船駅で当時パンの耳だけ売っていたのを買い食いしたらしい。そこにごくまれに赤い筋が付いていると大いに嬉しかったと、生前語っていた。

耳は大船軒のサンドイッチの端で、挟んだ鎌倉ハムが僅かに切り出されることもあったのだろう。今年 120 周年、明治 31 年創業の同店がその翌年に、名物「鱈の押寿司」に先んじて発売したこのハムサンドは日本初のサンドイッチ駅弁だそうで、チーズサンドが混ざるようになったものの、530 円で現在も販売されている。素朴ながら、私も好きな味だ。

ところで、関東大震災によりその校舎が壊れるまでは、海軍機関学校が横須賀に存在した。科学技術を教えた理系の学校だが、語学も英語は芥川龍之介、仏語は『レ・ミゼラブル』などを翻訳した豊島與志雄、そして独語は汽車好きの作家でもある内田百閒が教えるという豪華さだった。豊島と百閒は毎週金曜日の授業後、帰京途中の大船駅で買ったサンドイッチを車内で分け合って食べるのを楽しみとしていた。

ところが、ある日汽車が逗子駅まで間近い隧道を抜けた途端、けたたましい非常汽笛が響いて、急停車する。「線路のわきを歩

いて、私共の窓の下へ近づいて来る人の足音が、はっきり聞き取れた。『ここだ、ここだ』豊島が座席から立ち上がり、窓の下を見た。『あつ、女が轢かれてゐる。君、若い女らしいよ』私は不意に全身が硬ばつた気がした。身動きができない。『君、そんなものを見るのはよせ』『胴体が腰のあたりから切れてるんだ。赤い腰巻をしているよ。腰から上はそつち側かな』と云ひながら、彼は通路を跨がつて向う側の窓をのぞいた。『ないね、きつと僕達のこの下だらう』暫くすると窓外に大勢の気配がし、車体の下から残り半分を引き出そうとしているようだった、、、

やがて汽笛一声、漸く「汽車が逗子を出て鎌倉を過ぎ、大船が近くなる(引用者註即ち北鎌倉寄りか。なお当時北鎌倉駅未開業)につれて、いつもの事だからサンドウキツチを聯想した拍子に胸先が変になつた。中に挟んだ肉片を思っただけで、げえげえ云ひさうな気持がする。『僕は今日はサンドウキツチはいらない』

(百閒『黒い緋鯉—豊島與志雄君の断片』より。同『非常汽笛』も同一事故か。「横須賀通ひの初めの頃」、「五月雨の中」などから、今から百年前の 1918(大正 7)年 6 月頃のある金曜日の 3 時過ぎかと思われるが、事故の新聞記事は未見。豊島も同様に、友人がサンドイッチを食べられなくなる事故の話『轢死人』を残す。)

幸いなことに、百閒は後日再びこのハムサンドを食べられるようになったらしい。現在大船軒の売り場は増え、横須賀からなら大船を待たずとも、逗子や鎌倉の駅でサンドイッチを購入できる。どこかで耳だけでも売っていたら、食べてみたいものだが。

本田 隆史

活動記録

(2018年4月～2018年9月)

会計報告

(2017年4月1日より2018年3月31日まで)

特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

1 市公園課と打ち合わせ

4/26, 8/1, 9/6

2 総会

5/27

①昨年度事業報告、②今年度事業計画、③役員選任、④定款変更が承認されました。①のうち会計に関しては右の、③、④は以下の通りです。

③役員選任

現任の理事および監事の任期満了に伴い、全員が再選された。

1. 理事

望月眞樹、望月晶夫、小田原茂夫、森泉定男、本田隆史、小谷一夫、久保廣晃、出口克浩、島田哲夫、植木よう子、小幡正弘 計11名

2. 監事

林雄一郎 計1名

④定款変更

NPO法改正により、2018年10月1日から貸借対照表の公告を行うことが義務付けられるため、以下の内容に変更した。

一この法人の解散事由に係る公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに官報に掲載して行うが、貸借対照表については、この法人のホームページに掲載して行う。

3 理事会

4/1,5/6,5/27,7/1,8/5,9/2

なお、総会後5/27の理事会において、再選された理事から出口理事が理事長に再任された。

4 台峯を歩く会(山歩き)

4/15*

5/20(みどりショップの日)、6/17,7/15,8/19,9/16

5 山の手入れ

4/14,5/19,6/16*,7/14*,8/18,9/15*

6 モニタリング

4/14,5/6,5/19,8/5,8/18

7 ヘイケボタル・モニタリング(市職員2名他と)

6/26

8 マツムシを聴く会

9/17†

9 「なだいなだの学校同窓会」に理事長出席

6/3

*: 雨天等により中止

†: 雨天により中止の案内をするも、集合地点に来られた方がいたため、ご案内

(単位:円)

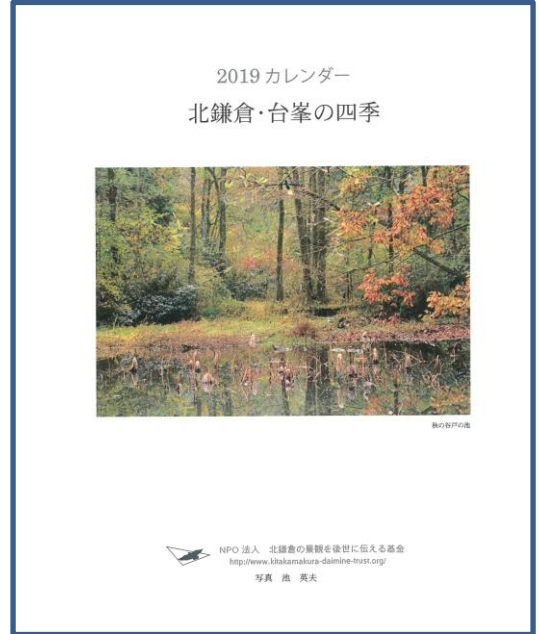
科 目	金 額	摘 要	
収 入	正会員会費収入	54,000	
	個人会員会費収入	157,000	
	団体会員会費収入	9,000	
	カレンダー収入	289,700	
	民間助成金収入	52,300	
	寄付金収入	1,200	
	受取利息	25	預金利息
	その他	793	保険料戻し他
収入計	564,018		
支 出	(緑地保全・管理事業)		
	整備作業費	7,400	道具購入、研磨
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	損害保険料	2,275	
	事務用品費	19,026	
	小 計	40,701	
	(普及・研修事業費)		
	通信運搬費	69,683	会報他
	印刷製本費	242,696	カレンダー、会報他
	編集費	70,432	カレンダーデザイン
事務消耗品費	8,988		
賃借料	33,522	山歩き会場他	
損害保険料	2,275		
会議費	7,290		
小 計	434,886		
(広報・出版事業費)			
通信運搬費	5,852	HP回線使用料	
広告宣伝費	50,324	鎌倉朝日	
小 計	56,176		
(交流・協力事業費)			
負担金	3,000		
渉外費	8,400		
小 計	11,400		
(管理費)			
通信運搬費	27,200	会費入金費用	
事務消耗品費	4,616		
賃借料	24,000	総会理事会会場	
会議費	8,015		
雑費	4,066		
印刷費	2,720		
小 計	70,617		
支出計	613,780		
経常収支差額	▲ 49,762		
緑地保全積立金繰入	1,200	寄付金相当額	
当期収支差額	(50,962)		
保 有 資 産	現金	199,837	全て期末時点
	当座預金	3,122,486	
	普通預金	105,710	
	定期預金	288,547	
計 正味財産	3,716,580		

監事の林雄一郎先生より適正との監査報告書を頂戴しております。

<台峯カレンダー>

池 英夫さんの美しい写真によるカレンダー(右)を発行します。今回も鎌倉市から後援(鎌み第 560 号)を頂いています。ご希望の方は、

- ① 近く販売開始予定の市内書店等(島森、大里、たらば、あらいや)にて@1千円(税込)でご購入
 - ② 切手@1千2百円(税・送料込)×部数分を添えて事務局まで郵便でお申込み
 - ③ 近くご請求しますが、来年度会費お支払い時に、@1千2百円(税・送料込)×部数分を加算して郵便振込でお申込み
- のいずれかにより、ご購入ください。



<会員の集い ご案内>(予告)

年に一度会員の皆さまに台峯の現状や今後についてご説明やご報告を行い、また皆様からご意見を伺う場です。

今年は11月23日(祭)13:30~山ノ内公会堂にて、の予定です。

詳しくは、追ってご案内申し上げます。

会報 38 号

発行日 2018年9月30日
 発行者 特定非営利活動法人
 北鎌倉の景観を後世に伝える基金
 事務局 〒248-0011 鎌倉市扇が谷 3-2-12 本田方
 HP www.kitakamakura-daimine-trust.org

< 編集後記 >

鯖の缶詰が売れているという。スーパーに行くと、確かにいろいろ並んでいる。

中に“サヴァ缶 Ça va?”という、何やらふざけたラベルの商品を見つけた。仏和辞典で調べると、「元気?」の意で、そう挨拶されたら“Ça va サヴァ(元気)!”と返す。皆が口々にそう挨拶するので、小洒落たパリの街角も、何だか魚屋の店頭のような風情に、、、「奥さん、今日は何にする?鯖?」、「そうね、鯖!」てな具合。

では、鯖は?と次に和仏辞典を引くと“maquereau マクロ”。鯖かしら?違った、鯖は“thon トン”。豚?いや、豚は、なんと“cochon コシヨン!”

思わず大きな声が出たらしく、横から女房が、“あら、あなた、風邪?「元気」じゃないわねえ。”